

(11) アムリット (M5) によるヒトの血小板凝集の予防

文献名

Clinica and Terapia Cardiovascolare, Vol.8, No.3, pp.227-230, 1989.

著者

H.M. Sharma,* Y. Feng,** and R.V. Panganamala.**

実施場所

*Department of Pathology and **Department of Internal Medicine, College of Medicine, The Ohio State University, Columbus, OH (オハイオ州立大学、医学部、病理学科、内科学科、オハイオ州コロバス)

要約

アムリット5は「ラサヤナ」として知られる物質のグループに属する。ラサヤナの目的には二つの面がある。病気を予防することと、老化過程を遅延または逆転させることである。これらの結果は生理的バランス(恒常性)の最適化がはかれることによる。本調査は、ヒトの血小板の凝集にアムリット5が及ぼす影響を研究するために行った。血小板の凝集は、フリーラジカル、カテコールアミン、および、酸化した脂質で血管内層が傷つくことにより誘発されることがある。この試験管内の実験では、通常健康な被験者から採取した、血小板を多く含む血漿において、アムリット5が血小板の凝集を減少させることを示した。この凝集の防止は、以下の血小板凝集誘発物を用いた場合に認められた。カテコールアミン：ストレスを受けたときに放出される。コラーゲン：血管の内皮細胞が傷ついたときに露出される。アラキドン酸：傷ついた細胞膜から放出される。ADP：傷ついた赤血球と血小板から放出される。血小板の凝集はアテローム性動脈硬化の発症と進行の重要な側面と考えられているので、血小板の凝集を減少させるアムリット5の効力はアテローム性動脈硬化の予防に有効であると考えられる。